

稲地都第17.9号の1

平成20年10月20日

国土交通省道路局長

様

稲美町長 古 谷



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

みだしのことについて、別紙のとおり報告しますので、よろしくお願い致します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

兵庫県稲美町

新たな中期計画(5年)策定にあたり、選択と集中が道路行政に必要であるといわれており、その重点目標(案)では、「地域活力の向上」が取り込まれておりますが、国民にわかりやすい重要な路線が新規採択されますよう強く要望いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

兵庫県稲美町

○ 現状

稲美町は、兵庫県東播磨地域臨海部に位置しており神戸市・明石市・加古川市・三木市に囲まれた 3 万 2 千人余りの「田園居住都市」です。

ところが、人口規模の大きい都市に隣接しているものの国道と鉄道が町内を走らない特異な町となっており、このことが稲美町の発展を妨げている 1 つの要因になっていると考えております。

○ 課題

兵庫県を縦横断する高速道路は多数供用開始されておりますが、中国自動車道・山陽自動車道・阪神高速道路～第二神明道路～加古川バイパス～姫路バイパスの 3 本の東西線のうち、稲美町を含む播磨臨海部人口 125 万人の都市をつなぐ第二神明道路～加古川バイパス～姫路バイパスの交通量が一番多く慢性の渋滞を起こしているところです。

今年2月、姫路市に世界の松下電器産業の子会社であるIPS アルファテクノロジーが進出することが決定しました。

稲美町にとって、慢性渋滞の加古川バイパスの解消に向けた姫路市と神戸市をつなぐ播磨臨海道路の新設は非常に「地域活力の向上」に役立つと考えており、選択と集中においても生き残る路線であると確信をしているところです。

このことが、日本の五大工業地帯の一つである播磨臨海工業地域の発展と、面積約800km<sup>2</sup>、人口約125万人を有する市街地が連坦する一体的な播磨生活圈域と産業圏域の発展に必ず役立つと考えております。

ひいては、稲美町の目指すべき将来像である「個性と魅力にあふれた活力ある田園居住都市」の都市づくりにつながると考えられます。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

兵庫県稲美町

| ○重点事項           | ○代表事例                                                 | ○期待する効果や評価等                                                                                                      | ○その他 |
|-----------------|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| <p>・地域活力の向上</p> | <p>慢性渋滞の加古川バイパスの解消に向けた姫路市と神戸市をつなぐ<u>播磨臨海道路の新設</u></p> | <p>日本の五大工業地帯の一つである播磨臨海工業地域の発展と、面積約 800 m<sup>2</sup>、人口約 125 万人を有する市街地が連坦する一体的な播磨生活圈域と産業圏域の発展に必ず役立つと考えております。</p> |      |